

令和6年度 群馬県麻しん・風しん対策会議次第

日時：令和6年7月8日（月）18:00～19:30

形式：Zoom開催

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

- (1) 麻しん及び風しんの発生動向について (事務局) P 1- 7
- (2) 令和5年度群馬県麻しん・風しん対策会議の取組 (事務局) P 8-25
各機関の令和5年度取組状況および令和6年度取組予定について (各委員) P26-46
- (3) 令和6年度群馬県麻しん・風しん対策会議の取組（案） (事務局) P47
- (4) その他

4 閉 会

令和6年度 群馬県麻しん・風しん対策会議出席者一覧

◆委員

No.		所属・職名	氏名	備考
1	群馬県医師会	群馬県医師会	今泉 友一	副委員長
2		群馬県医師会	川島 崇	
3	市町村	群馬県市長会会長（太田市健康づくり課長）	川田 聡美	
4		群馬県町村会会長（嬭恋村健康福祉課長）	黒岩 孝義	
5	学識経験者	群馬大学医学部附属病院	徳江 豊	委員長
6	事業者団体	群馬産業保健総合支援センター	清宮 和之	代理：西谷 慶子
7	保健所長会	前橋市保健所長	大西 一徳	
8	県教委	健康体育課長	橋 憲市	代理：星野 よし美
9	県関係課	医務課長	佐藤 貴彦	
10		生活子ども部 子ども・子育て支援課長	布見 洋美	
11		生活子ども部 児童福祉課母子保健・障害児支援室長	鳥塚 里香	
12		衛生環境研究所長	猿木 信裕	
13		感染症・疾病対策課長	武智 浩之	

◆事務局

No.	所属	職名	氏名	備考
1	感染症疾病対策課	感染症危機管理室長	小内 宏美	
2	感染症対策係	感染症対策係長（補佐）	宮下 百代	
3	感染症対策係	主幹	吉住 聖子	
4	感染症対策係	技師	染谷 留美	
5	予防接種係	予防接種係長（補佐）	浅野 竜也	
6	予防接種係	主任	白石 成美	

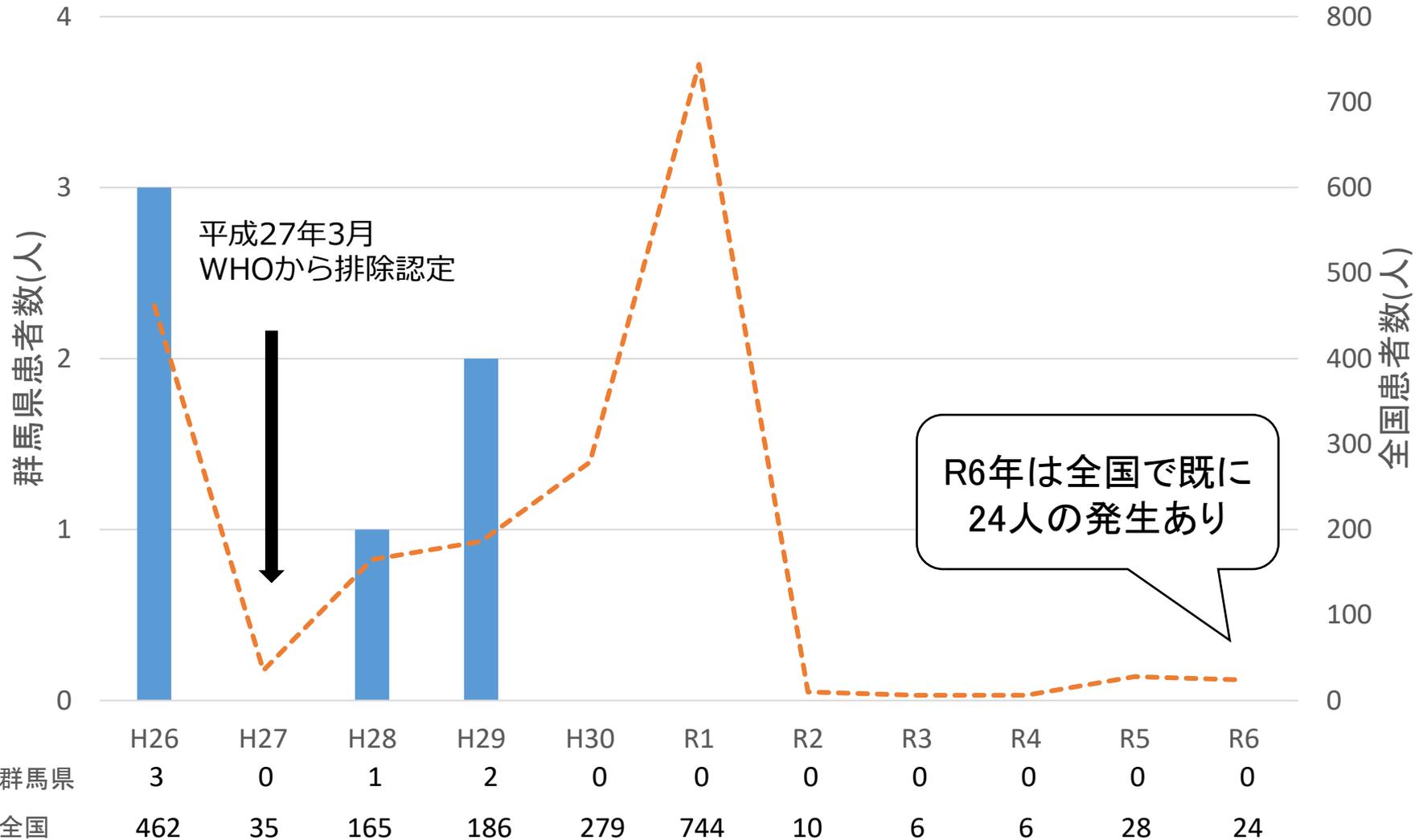
麻しん・風しんについて

	麻しん	風しん
感染経路	飛沫・空気・接触	飛沫・接触
潜伏期間	10～12日間	16～18日間(2～3週間)
症状	発熱、発疹、カタル症状(咳、鼻水等) 肺炎、脳炎など重症化することもある	発疹、発熱、リンパ節の腫れ 妊婦が妊娠20週頃までに感染 →胎児が「先天性風しん症候群」になる可能性がある ⇒白内障、心疾患、難聴等
周囲にいる感受性者(免疫のない・あるいは不十分な人)に対して1人の患者が感染させる人数	12～18人	5～7人

免疫の無い(低い)者が感染するとほぼ100%発症

※インフルエンザは2～3人

麻しん患者数の推移



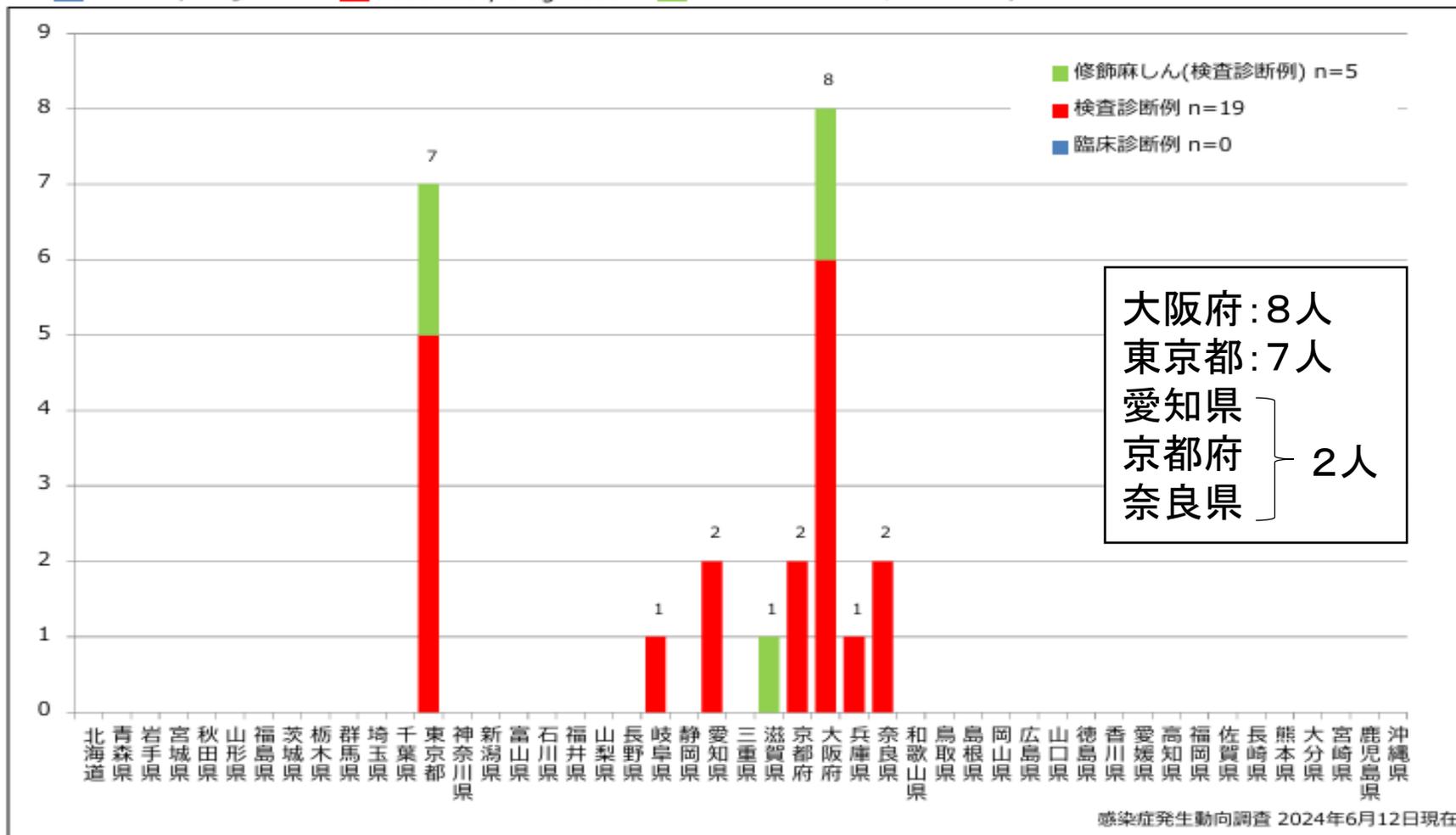
*R6年は第24週（6/16）までの集計

R6 麻疹 都道府県別/病型別報告数

4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2024年 第1~23週 (n=24)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-23, 2024 (as of June 12, 2024)

■ Clinically diagnosed
 ■ Laboratory diagnosed
 ■ Modified measles, Laboratory

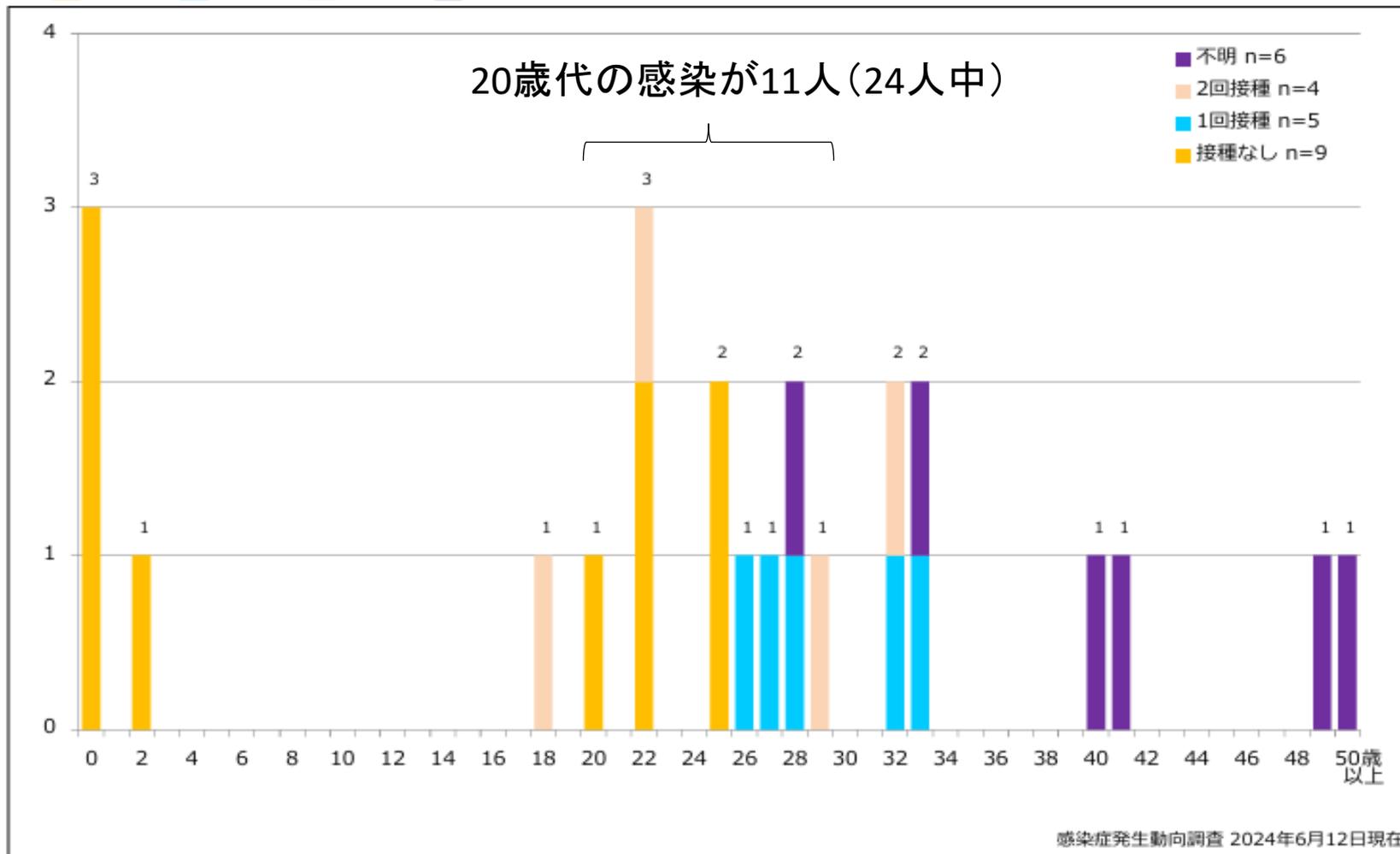


R6 麻疹 年齢別/接種歴別報告数

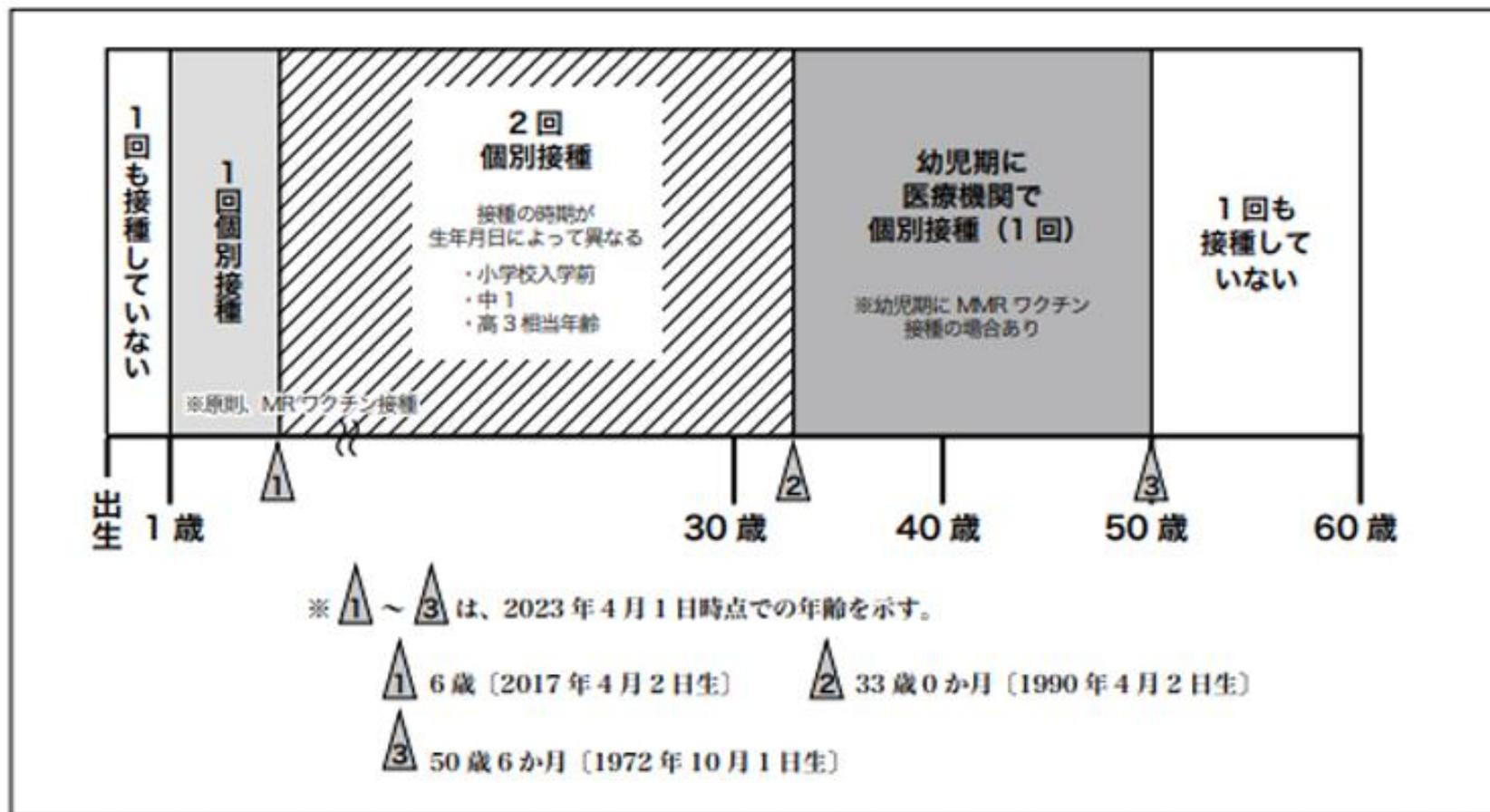
6. 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2024年 第1~23週 (n=24)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-23, 2024 (as of June 12, 2024)

None MCV1 MCV2 Unknown

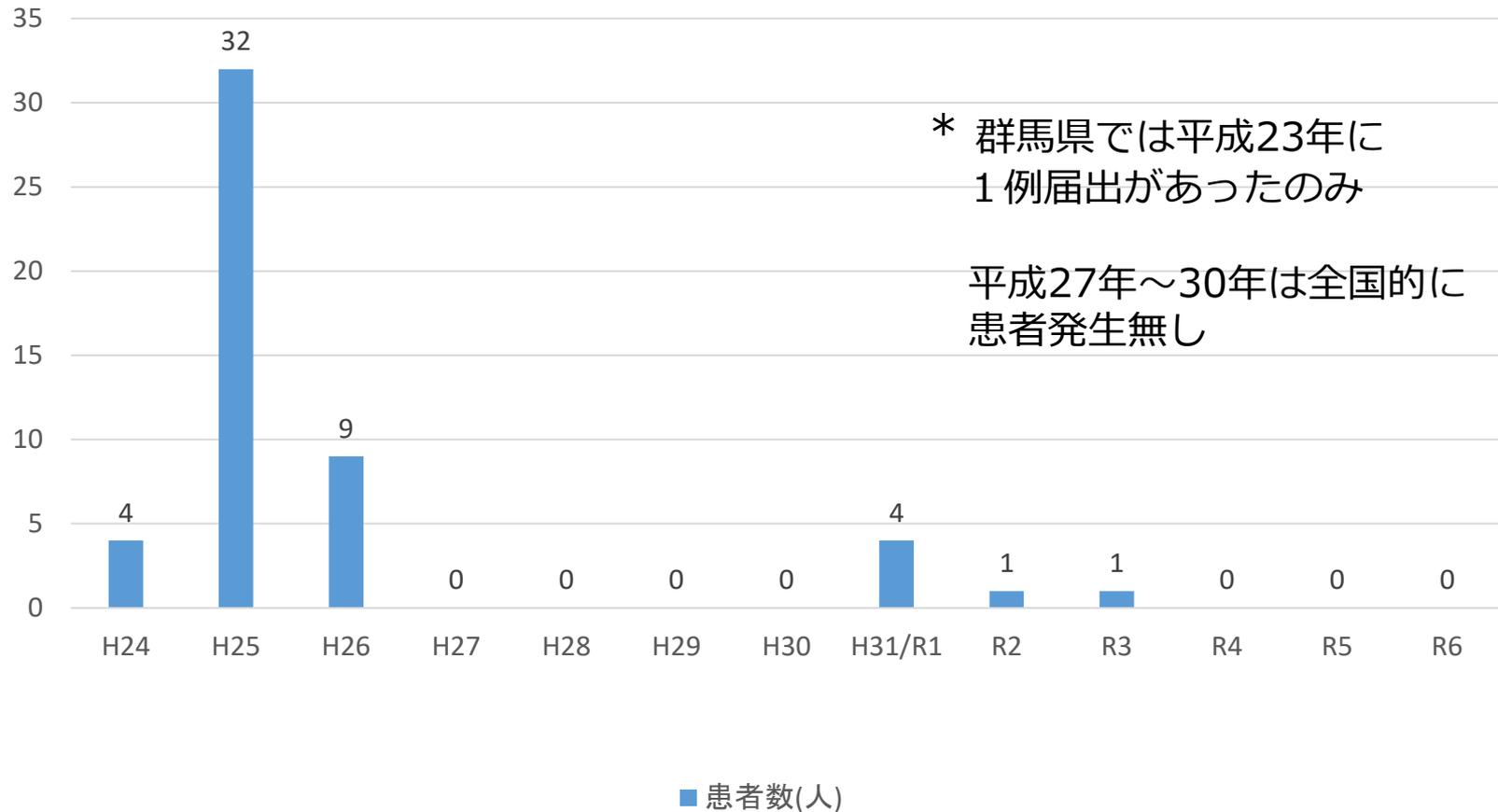


1978年10月に始まった麻しん（含有）ワクチンの定期接種状況

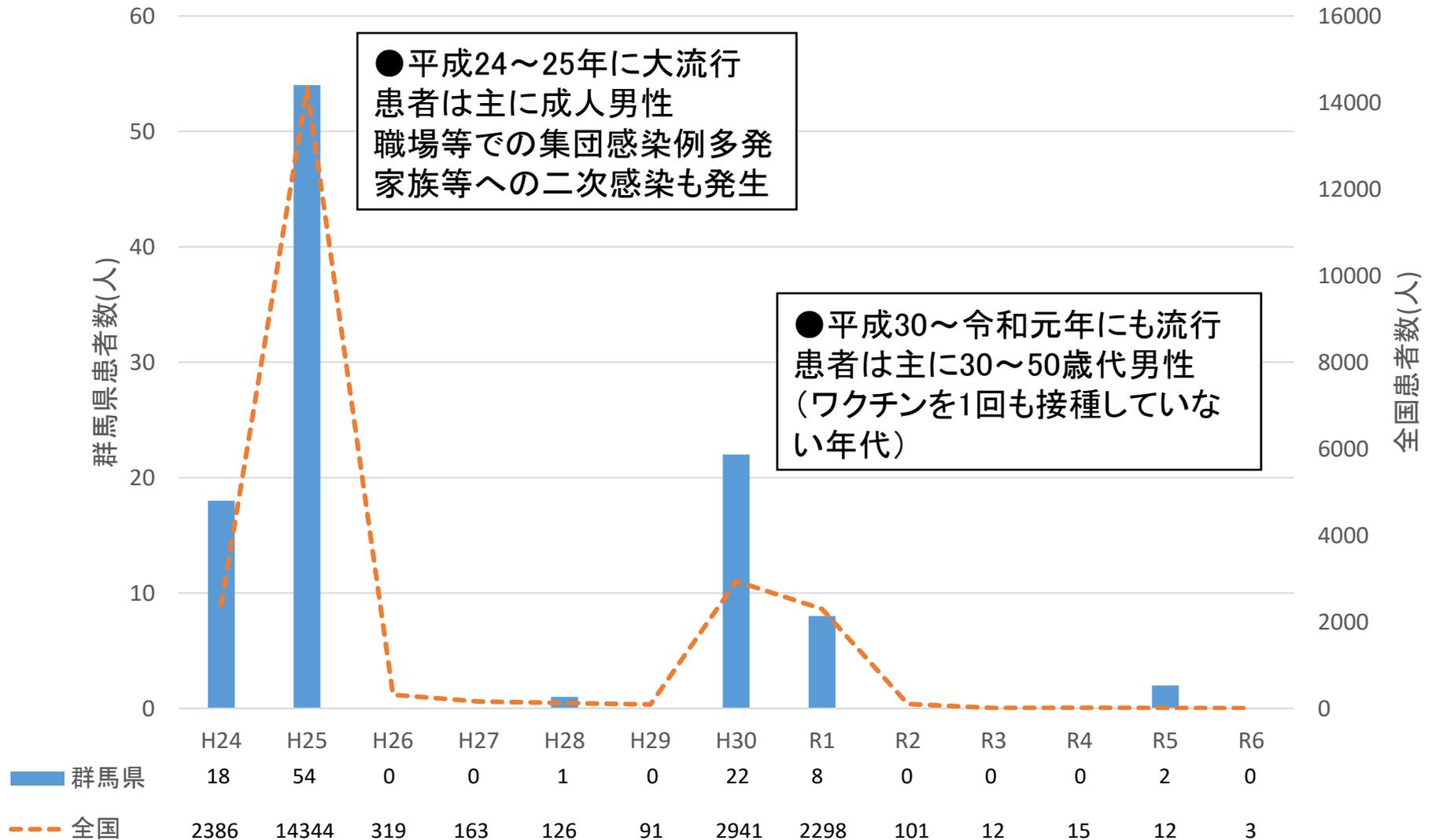


「第4回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会配付資料」厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000015044.html> をもとに作成 (2023年8月現在)

先天性風しん症候群患者数



風しん患者数の推移



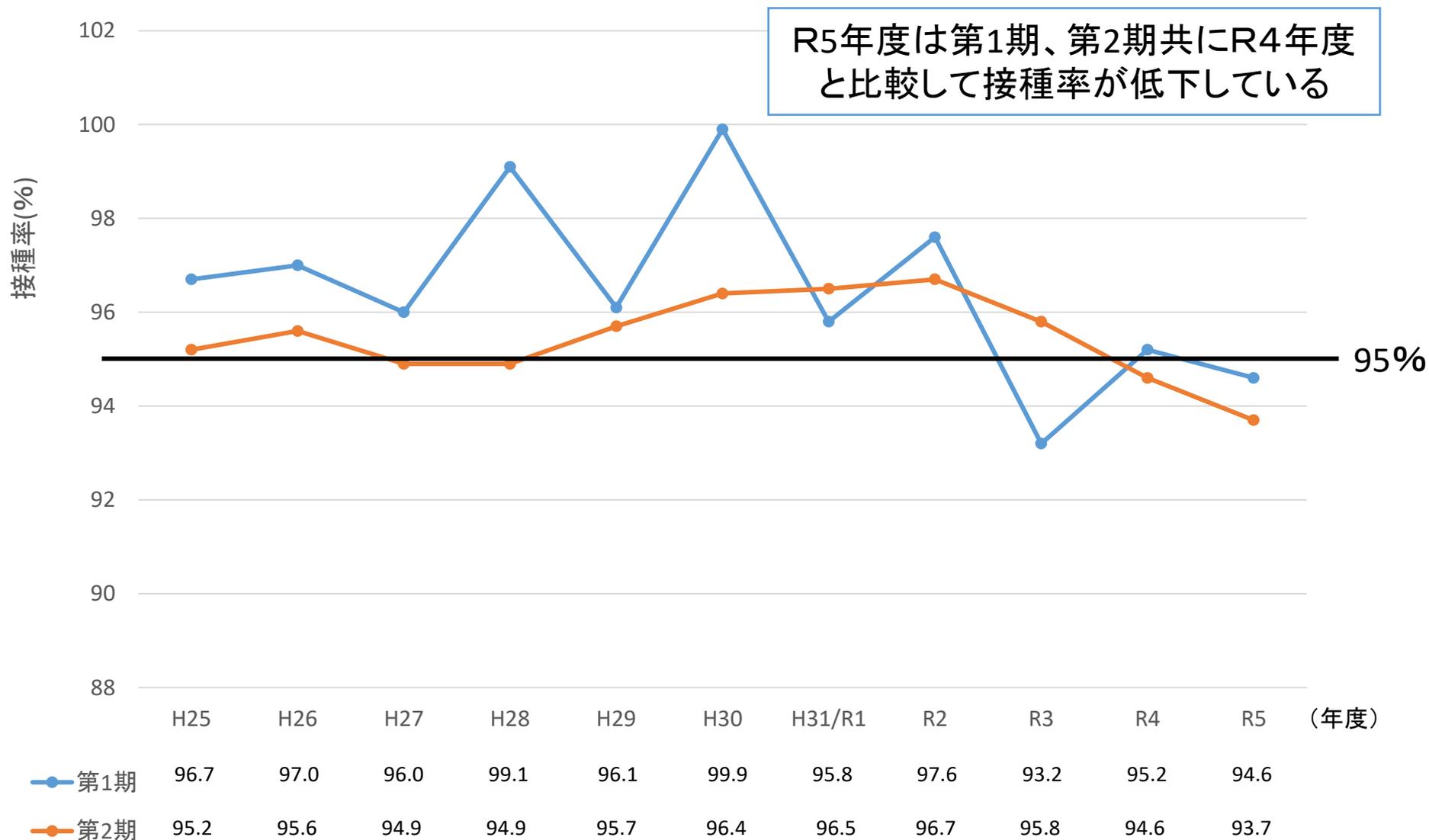
*R6年は第24週(6/16)までの集計

定期予防接種

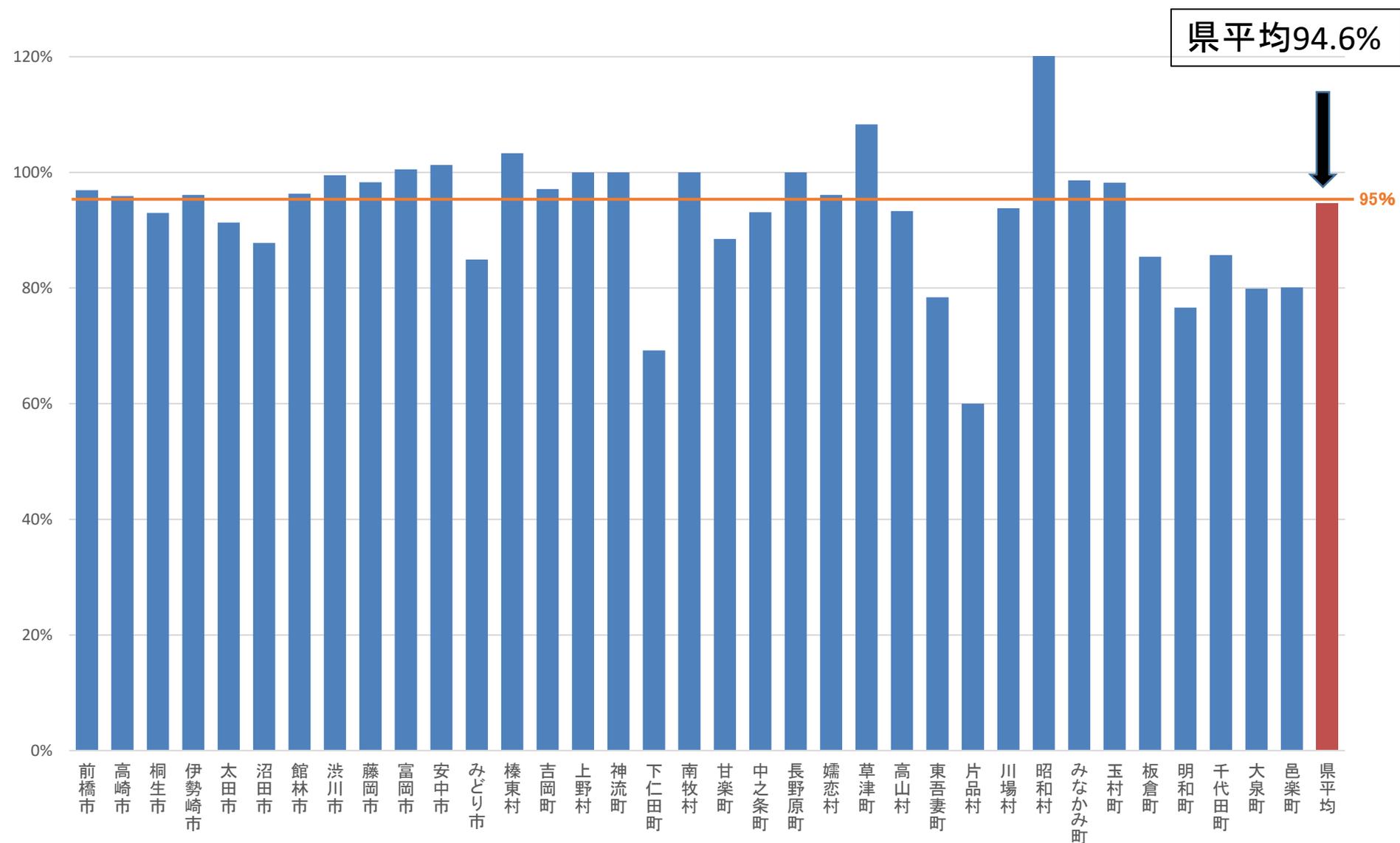
- 麻しん及び風しんはワクチン接種によりほぼ予防可能
→予防接種法により定期接種として位置づけられている
- 麻しん・風しん混合（MR）ワクチンを2回接種
 - 第1期 満1歳以上2歳未満
 - 第2期 5歳以上7歳未満で、次年度に小学校へ入学する人

（令和6年度：平成30年4月2日～平成31年4月1日 生まれが対象）
- 流行を防ぐためには、**95%以上**の接種率を維持することが必要

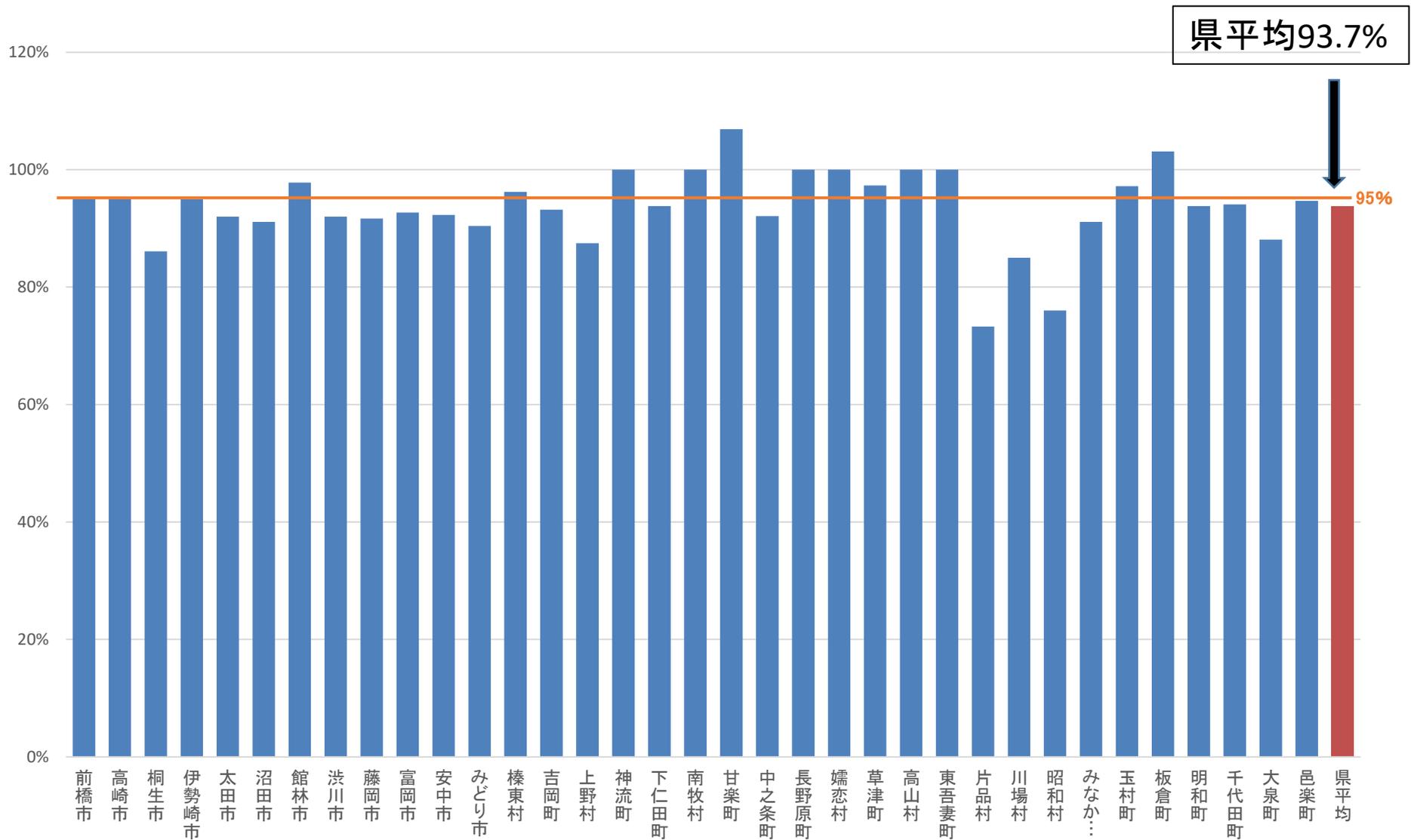
H25～R5年度 群馬県MRワクチン定期接種率



R5年度 第1期 市町村別ワクチン接種率



R5年度 第2期 市町村別ワクチン接種率



定期接種率が95%を上回った/前年度より上がった理由

～市町村への聞き取りから～

○保護者の意識向上・予防接種の積極的勧奨

- ・未接種者に対する電話、はがきによる個別の接種勧奨（3回以上）
- ・乳幼児健診の保健指導で接種歴の確認と、未接種者への接種勧奨（直接勧奨）
- ・入学説明会、就学時健診等でのチラシ配布
- ・ホームページ、公式LINE、Instagram、広報等による情報発信
- ・市町村独自のモバイルアプリ（予防接種スケジュール管理アプリ）での周知

○環境上の理由

- ・コロナが5類に移行したことで受診控えが減った
- ・集団接種と個別接種の両方をもうけた

○集計上、人口上の理由

- ・転入者や出生数が多く、接種者数が対象者数を上回った

定期接種率が95%を下回った/前年度より下がった理由

～市町村への聞き取りから～

○保護者の意識・環境上の理由

- ・ 年度末のMRワクチンの供給不安定（特に第2期の接種率に影響したのではないか）
- ・ 自費接種者がいた（麻しんの流行、ワクチン供給不足、体調不良等）
- ・ 保護者が予防接種を希望しない／接種が困難な家庭環境

○勧奨の方法の課題

- ・ 外国籍児への予防接種案内、接種歴の把握等

○集計上・人口上の理由

- ・ 他市町村や国外で接種した児が計上されていない（転入者）
- ・ 対象年齢人口が少ない市町村は、一人の未接種でも接種率が大きく低下
- ・ 対象者数の基準日の関係で、出生数の低下や対象児の転出に伴い（未接種者が居なくても）接種率が低下する

参考：MRワクチンの供給不安定について

R6.1月 タケダ MRワクチンの自主回収

R6.3月

県薬務課から卸売販売業へ
需給状況について聞き取り

卸売販売業によっては、一部在庫の逼迫が確認できるが、ワクチンの偏在や在庫の集中が起こらないよう調整を行っている。

当課から各市町村へ状況
について聞き取り

- ・特に不足の情報はなく、医療機関内での混乱もない。
- ・住民から、MRワクチンの予約を断られたとの連絡が入ったため、市町村内外の他の医療機関での接種を勧めた。

風しんの追加的対策

- 平成30年夏以降の風しんの感染拡大を受け、過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった世代の男性を対象として、3年間、全国で抗体検査と予防接種法に基づく定期接種を実施することとした。
- 一方、新型コロナウイルス感染症に伴う受診控え、健診の実施時期の見直し等の様々な影響により、当初の見込みどおりには進まなかった。
- 風しんの流行を防止するために、当初目標まで抗体保有率を引き上げる必要があるため、目標の到達時期を延長し、引き続き追加的対策を実施している。 **(2025年3月末終了予定)**

目標

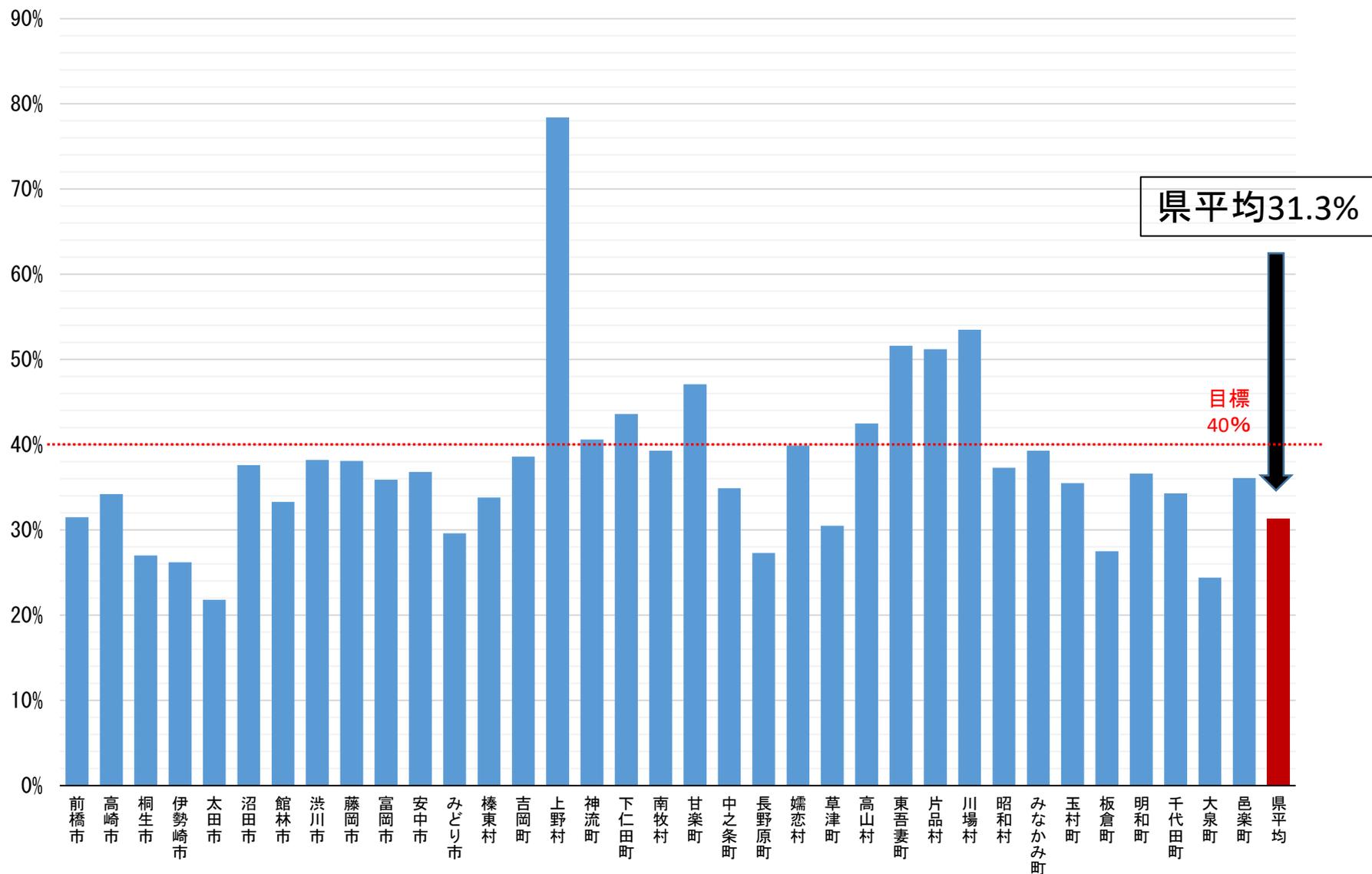
【対象】 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

- 【目標】 (1) 2021年7月までに、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。
(2) 2021年度末までに、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

【対象】 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

- 【目標】 (1) 2022年12月までに、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。
(2) 2024年度末までに、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

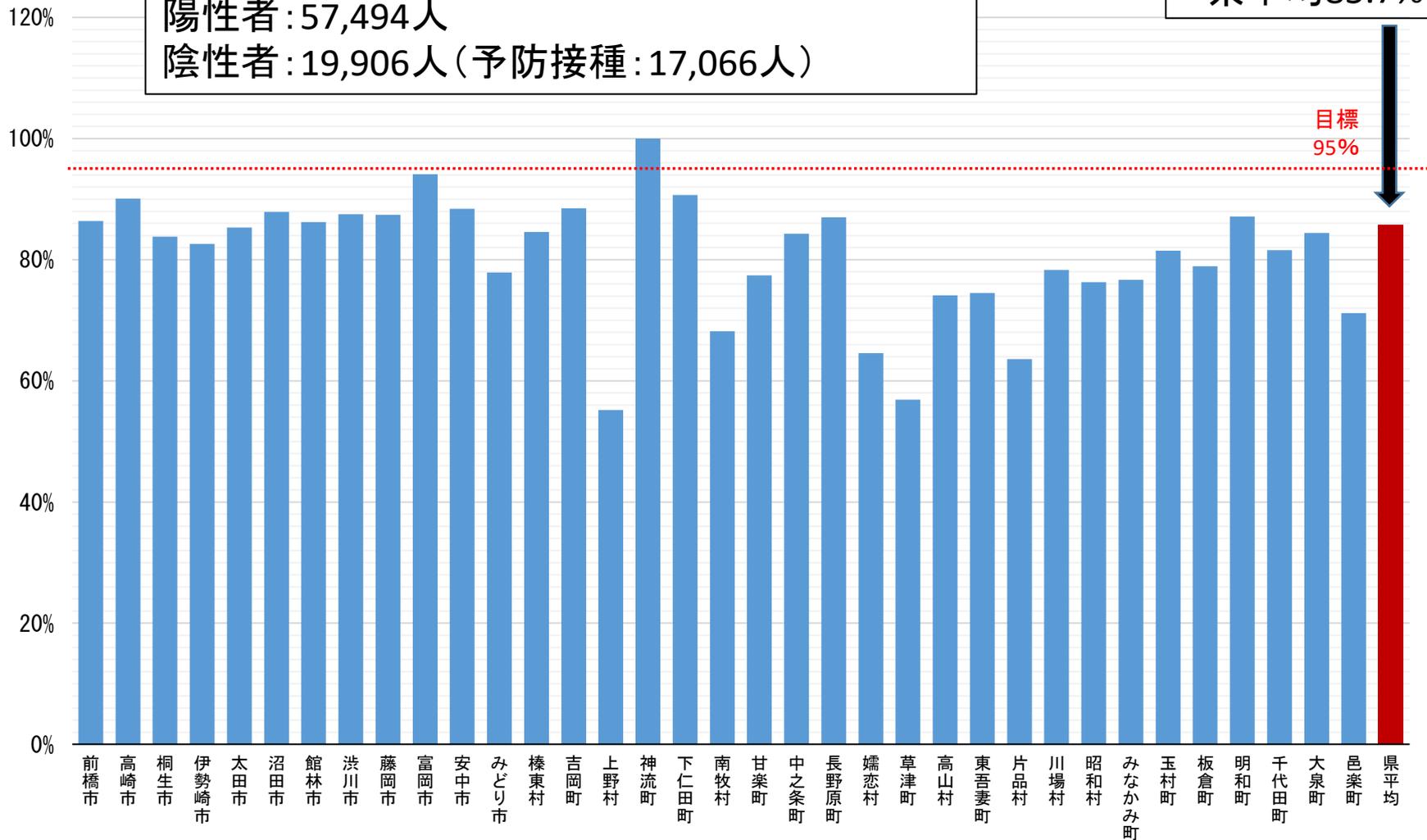
クーポン券発行枚数に対する抗体検査受検率



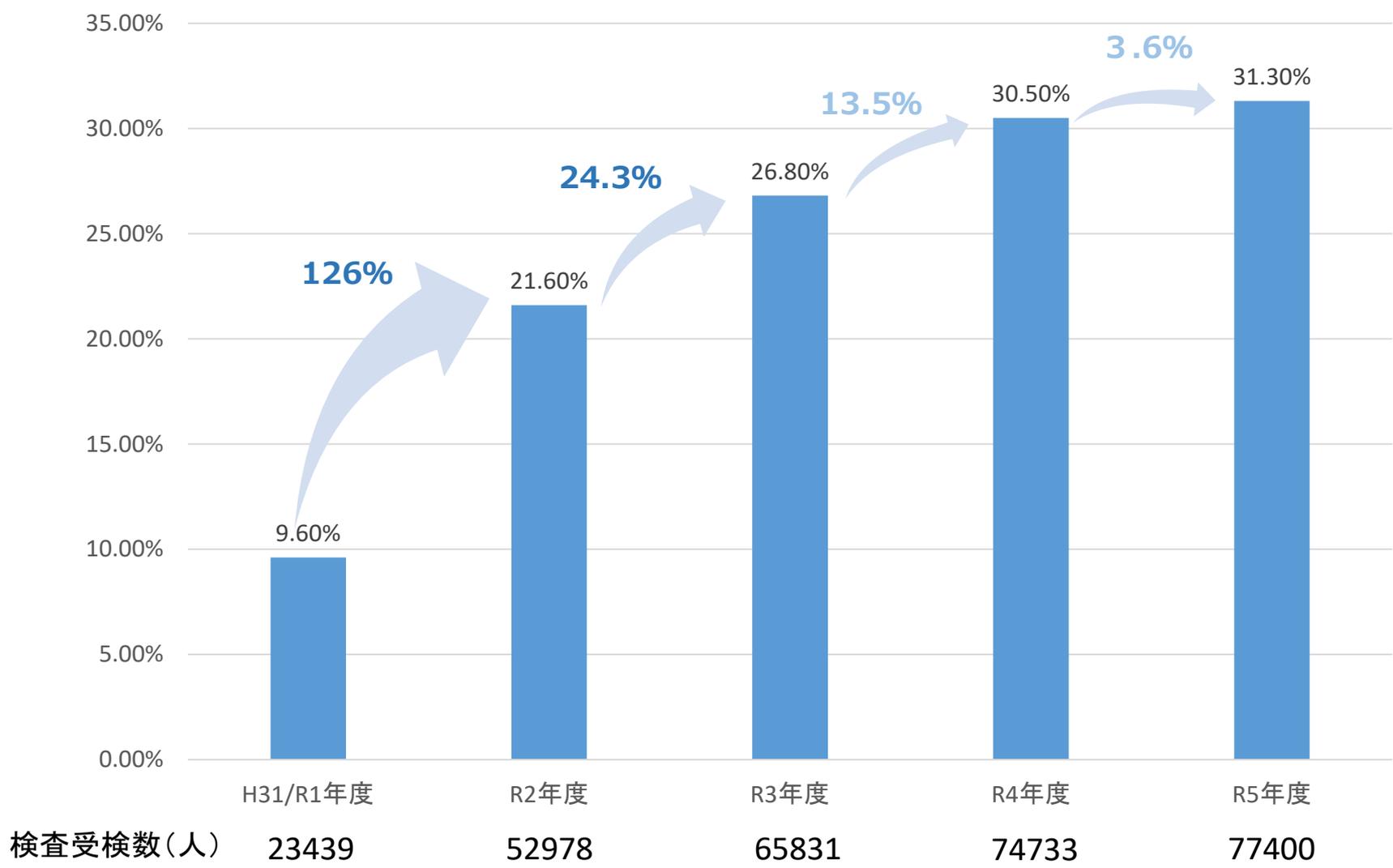
検査陰性者に対するワクチン接種率

対象者: 239,855人 (陽性者 + 接種者 = 74,560人)
 陽性者: 57,494人
 陰性者: 19,906人 (予防接種: 17,066人)

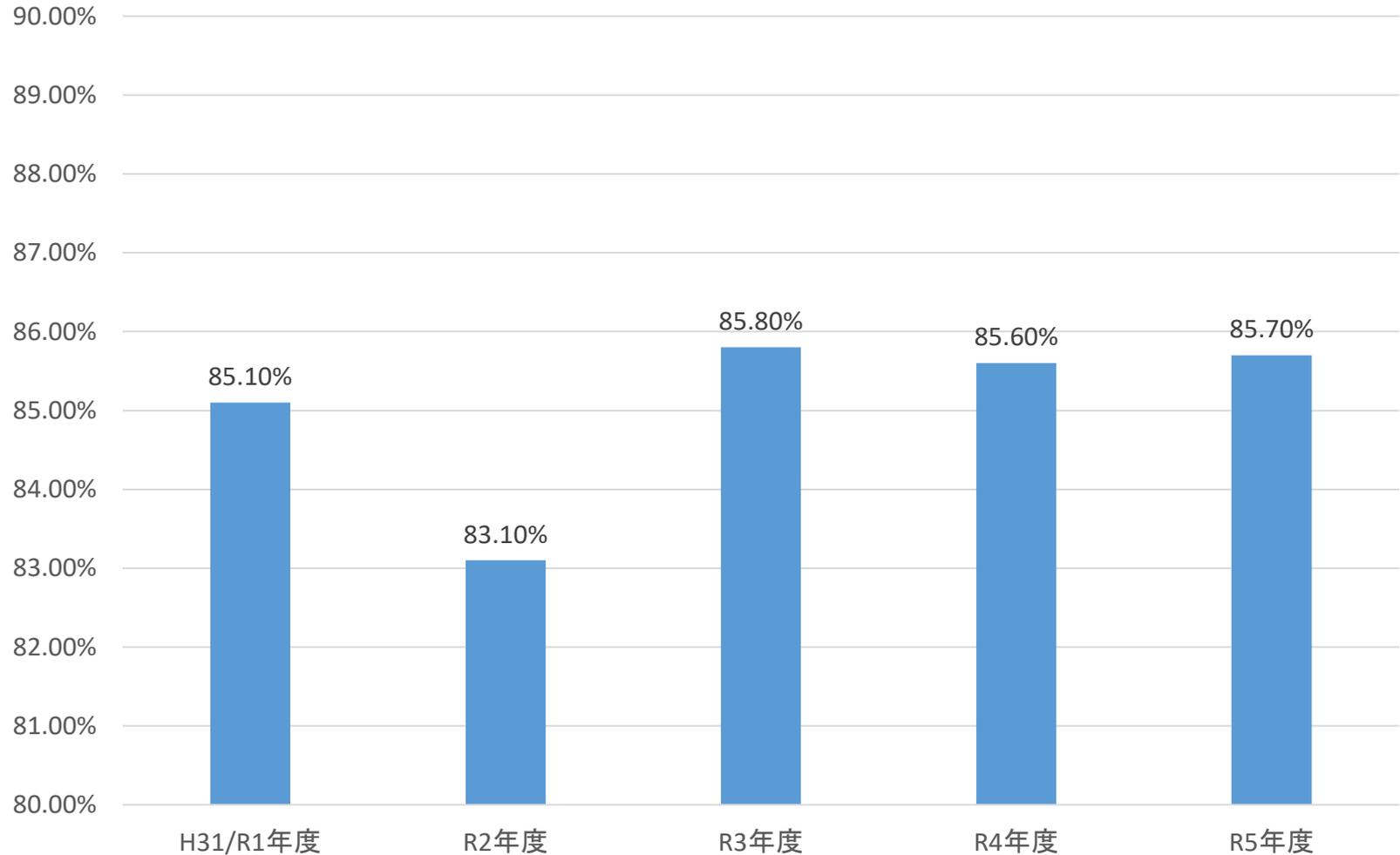
県平均85.7%



クーポン券発行枚数に対する抗体検査受検率の年次推移

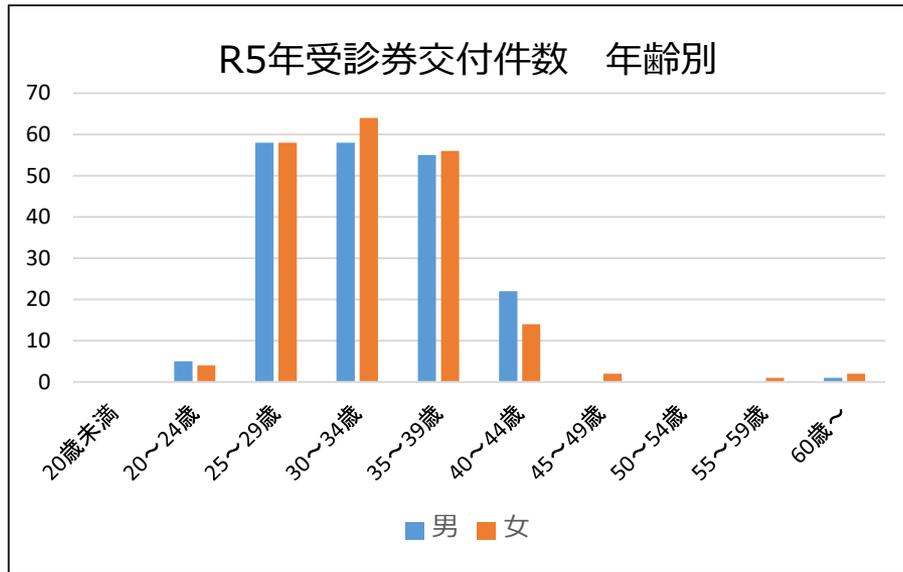


検査陰性者に対するワクチン接種率の年次推移



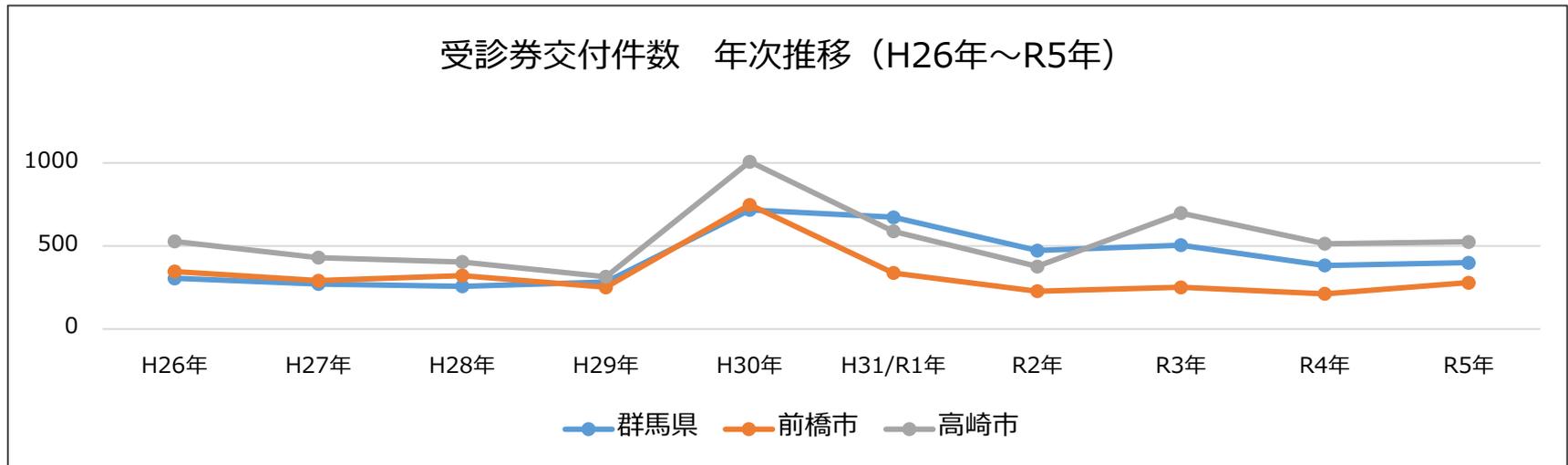
検査陰性者(人)	6386	13737	17151	19242	19906
接種件数(件)	5433	11409	14723	16474	17066

令和5年度群馬県風しん抗体検査事業

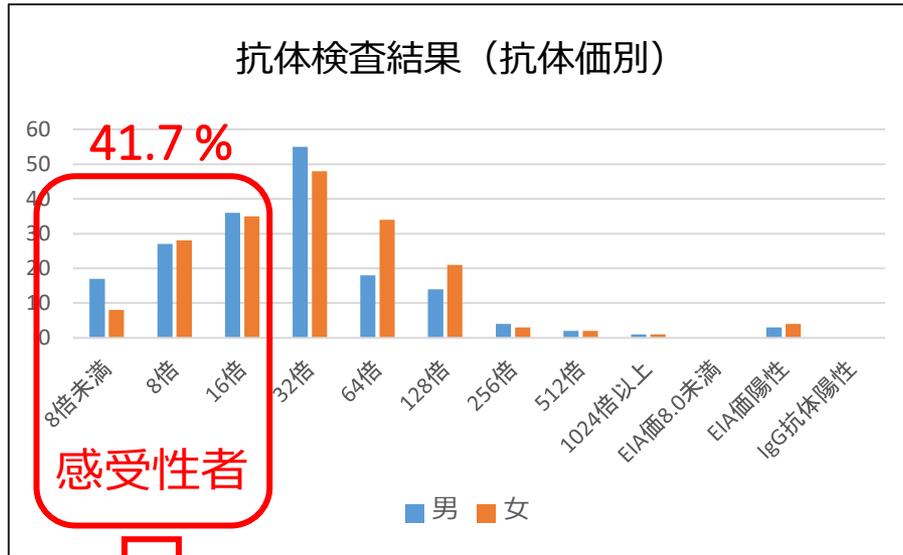


■ 受診券交付件数 (件)

女性	201
男性	199
合計	400



令和5年度群馬県風しん抗体検査事業



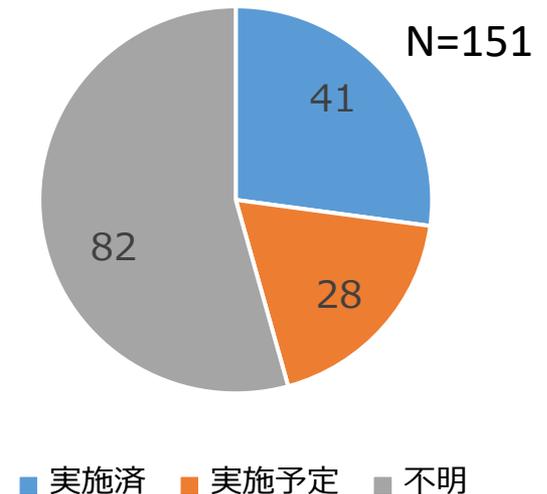
■ 抗体検査実施件数（件）

女性	185
男性	177
合計	362

<感受性者の予防接種実施状況>

■ 抗体検査実施後の予防接種実施状況

抗体価	予防接種勧奨	予防接種実施	実施予定
8倍未満：	25名	10名	7名
8倍：	55名	16名	9名
16倍：	71名	15名	12名
合計	151名	41名	28名



※報告書に記入があった物に限る

令和5年度流行性疾患患者通報業務

■ 通報件数 (件)

麻しん疑い	8
風しん疑い	5
麻しん・風しん疑い	1
合計	14

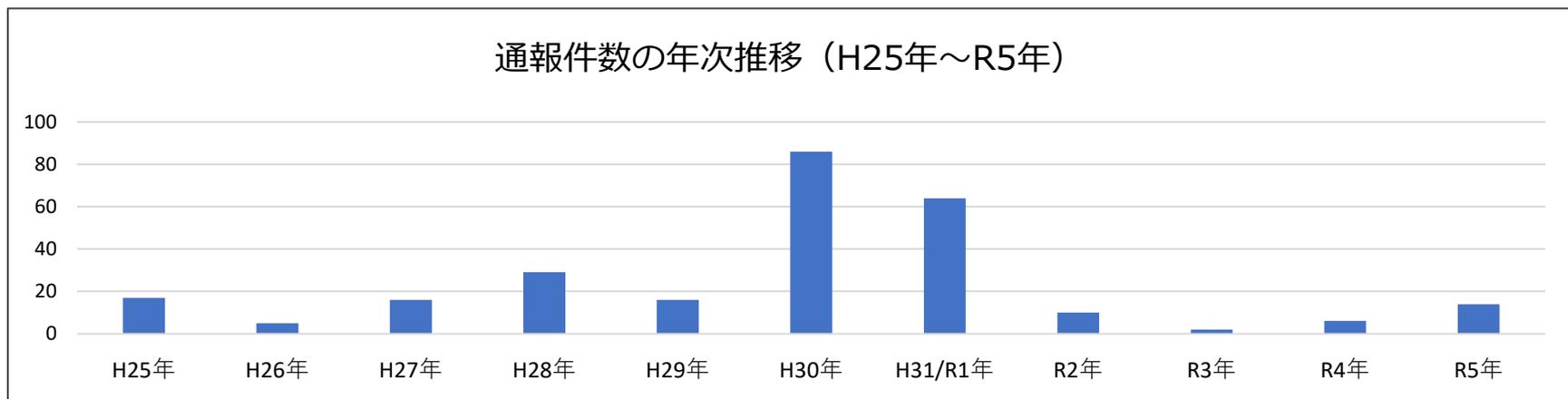
■ PCR検査結果

麻しん疑い	全て陰性
風しん疑い	全て陰性

■ 疑い患者概要

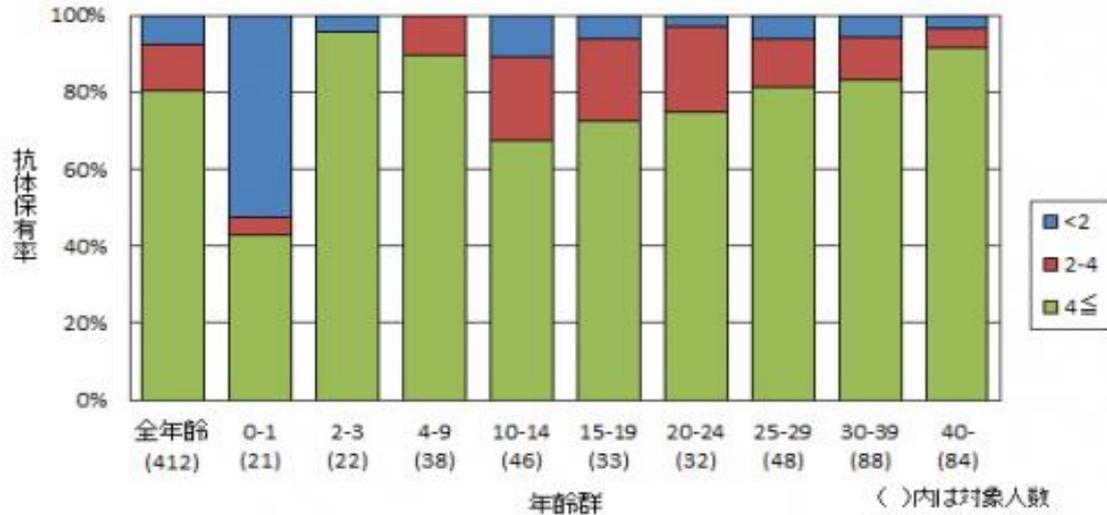
性別	男性：12名 女性：2名
平均年齢	23.6歳
予防接種歴	2回接種：1名 1回接種：5名 接種なし：1名 不明：7名
海外渡航歴	海外渡航歴なし：13名 不明：1名

通報件数の年次推移 (H25年～R5年)



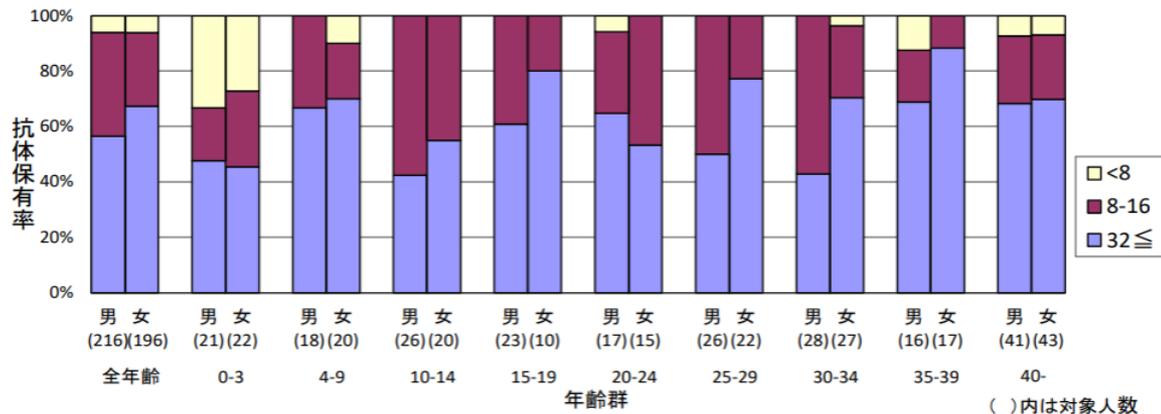
令和5年度群馬県感染症流行予測調査

図1 年齢群別麻疹EIA抗体保有状況



■ EIA抗体価4.0以上の抗体保有率は全体の80.6% (R4年度80.2%)

図2 年齢・性別群別 風しん抗体保有状況



■ HI抗体価1:32以上の抗体保有率は全体の61.7% (R4年度71.4%)

*対象年齢:0~70歳

令和5年度 群馬県麻しん・風しん対策会議の取組

- 1 第1期（満1歳以上2歳未満）・第2期（5歳以上7歳未満で、次年度に小学校へ入学する人）予防接種について、県平均95%以上の接種率を維持する。
 - ・接種率の低い市町村に対する支援、助言
 - ・未接種者に対する勧奨の強化
- 2 成人男性に対する「風しんの追加的対策」を推進し、県平均で対象者の受検率40%以上、うち陰性（予防接種対象）者のワクチン接種率95%以上をめざす。
 - ・対象者に対する事業周知
 - ・予防接種対象者のうち未接種者に対する勧奨の強化
- 3 抗体検査・任意接種の啓発を強化する。
 - ・医療関係者、児童福祉施設等職員、学校等職員、海外渡航者、公共交通機関、観光業関係者に対する予防啓発
 - ・妊娠希望女性及びその周囲の者に対する風しん任意接種の啓発強化
- 4 平常時から患者発生に備える。患者発生時は迅速に対応する。
 - ・疑い段階からの情報収集、関係機関連携（情報共有）
 - ・遺伝子検査による確実な診断
 - ・麻しん患者発生時の感染拡大防止措置の強化
(感染拡大防止のため、必要な限度で、患者が感染性のある時期に立ち寄った場所等の公表・医師会等への迅速な情報提供を実施)

令和5年度群馬県麻しん・風しん対策会議の取組状況まとめ

- 1 第1期（満1歳以上2歳未満）：94.6%
第2期（5歳以上7歳未満で、次年度に小学校へ入学する人）：93.7%

- ・未接種者に対し、通知発送や電話連絡を実施：各市町村
- ・広報、刊行物、FM ラジオ等で接種勧奨を実施：各保健所、衛環研、感疾課等
- ・夏休み、冬休み、就学時健診、入学・入園説明会等でこども園、保育園・幼稚園、小学校等を通じ接種勧奨ちらしを配布：健康体育課、各市町村等

- 2 対象者の受検率：31.3%
うち陰性（予防接種対象）者のワクチン接種率：85.7%

- ・風しん追加的対策のポスター・チラシの作成・配布：感疾課等
- ・広報、刊行物、FM ラジオ等で抗体検査及び予防接種を呼びかけ：各保健所、衛環研等
- ・各所職員に向け検査・接種勧奨：各保健所、感疾課等
- ・会議等でのチラシ配布：各保健所
- ・未受検者にクーポン券の再発行と個別勧奨を実施：市町村

3

- ・医療監視時に医療機関へ職員の抗体保有状況等の確認及び指導を実施：各保健所
- ・研修会で保育施設職員や高齢者施設職員等に対して予防啓発：各保健所
- ・学校教職員の罹患歴・予防接種歴の把握と抗体検査・予防接種の勧奨：健康体育課
- ・公共交通機関にポスターとチラシを配布：感疾課
- ・婚姻届出窓口、母子手帳交付窓口等にて風しん抗体検査事業の案内ちらしの設置・配布：各市町村
- ・広報等で抗体検査及び予防接種を呼びかけ：各市町村、各保健所等
- ・群馬県風しん抗体検査受診券発行時における任意予防接種の勧奨：各保健所

4

- ・県内の麻しん・風しん発生を迅速に把握するため、「疑い」の段階で医療機関から郡市医師会へ通報する（県医師会への委託事業）
- ・麻しん・風しん患者（疑い含む）発生時に医療機関や関係機関と迅速な連携をとり積極的疫学調査を実施：各保健所
- ・遺伝子検査 11 事例（29 検体）の検査を実施。結果はいずれも陰性：衛環研
- ・疑いを含め、学校における麻しん発生状況を把握し、発生等があった場合は、現場の対応を確認し、指導助言を行えるよう体制を整備：健康体育課
- ・国内伝播事例の発生に伴い、関係機関への情報共有やホームページ等での注意喚起を実施：衛環研、各保健所等

令和6年度 群馬県麻しん・風しん対策会議の取組（案）

麻しん・風しん共通

- 1 第1期（満1歳以上2歳未満）・第2期（5歳以上7歳未満で、次年度に小学校へ入学する人）予防接種について、県平均95%以上の接種率を達成・維持する。【麻・風】
 - ・接種率の低い市町村に対する支援、助言
 - ・未接種者に対する勧奨の強化
- 2 抗体検査・任意接種の啓発を強化する。
 - ・医療関係者、児童福祉施設等職員、学校等職員、海外渡航者、公共交通機関、観光業関係者に対する予防啓発【麻・風】
 - ・妊娠希望女性及びその周囲の者に対する風しん任意接種の啓発強化【風】
- 3 平常時から患者発生に備える。患者発生時は迅速に対応する。【麻・風】
 - ・疑い段階からの情報収集、関係機関連携（情報共有）
 - ・遺伝子検査による確実な診断
 - ・麻しん患者発生時の感染拡大防止措置の強化
(感染拡大防止のため、必要な限度で、患者が感染性のある時期に立ち寄った場所等の公表・医師会等への迅速な情報提供を実施)

風しん

- 1 成人男性に対する「風しんの追加的対策」を推進し、県平均で対象者の受検率40%以上、うち陰性（予防接種対象）者のワクチン接種率95%以上をめざす。（最終年度）
 - ・対象者に対する事業周知
 - ・未接種者に対する勧奨の強化